

冬の地震災害に備える

地震はいつ、どこで発生するかわかりません。冬の寒い時期に発生した大きな地震としては、「平成5年（1993年1月15日）釧路沖地震」や、「平成7年（1995年1月17日）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）」、近年では「平成23年（2011年3月11日）東日本大震災」などがあります。

もし、冬に大きな地震が発生した場合、雪の多い北海道では、夏よりも被害が大きくなるといわれています。今回は、冬に地震が発生した場合の備えについて紹介します。

①雪への備え

屋根に多くの雪が積もっていると、雪の重みにより家の倒壊の危険性が高くなります。また、地震の揺れによる屋根からの落雪で、避難路がふさがれることもあります。

日頃から自宅周辺などで落雪のおそれがあるところを確認しておきましょう。



②火災への備え

冬は夏と比べて風が強くなり、空気が乾燥しており、また、ストーブなど暖房器具を使用しているため、火災の危険が高くなります。地震が起きたらまず身の安全を守り、揺れがおさまってから暖房器具やガスコンロの火を消してください。

最近の暖房器具は、地震を検知して自動的にガスや灯油の供給を止める機能が備わっているものが多くなっています。ご家庭の器具に機能が備わっているか、きちんと動作するかなど、定期的に点検・確認しておきましょう。

また、電気が復旧する際に電気製品などがショートすることにより、火災が発生することがあります。避難する時には必ずブレーカーを落としましょう。

③寒さへの備え

地震によって電気やガスなどのライフラインがストップし、暖房器具が使えなくなることが考えられますので、防寒着、毛布、使い捨てカイロなどを用意しておくことも大切です。防寒着などは、避難所への移動時やその後の避難生活でも必要となります。

寒さへの対策についても考えておきましょう。



▲日頃より「防災のしおり」をご覧ください、万が一の災害に備えて下さい。

◆問合せ先：札幌管区気象台地震火山課

011-611-6125